

そもそも サクラ・Leaf って何？

※雑記※ ソメイヨシノの葉は花が散った後に茂ります。
華やかな花の後に生命力豊かに青々とした葉が茂ります。
華やかだけどなんだか危うい現代社会の後に生命力みなぎる次代を見出したいのです。
花と共に葉が出てくる八重桜もあります。
こちらもやさしく可愛らしい風情で、思わず桜餅を思い浮かべてしまいます。
因みに、桜餅に巻かれている葉っぱは大島桜の葉の塩漬けです。



みんなが幸せになるためには？

私も幸せになりたいと思いますし、全人類もれなく幸せになれば、自動的にあなたも私も幸せになれる。そのためにどうしたらいいか考える。出来れば実践もしたいけど一人では部分実践しかできないか。『天国の作り方』これがサクラ・Leafのテーマです。

どこに幸せを求めるのか？

これまで人類はそれぞれ幸せになりたいと思いながら人生を生きてきました。
幸せになった人もあれば不幸なまま生を終えた人もいます。
幸せに必要な要素は何か？財産？名誉？権力？名声？知識？生きがい？仲間？仕事？家族？健康？他にも必要なものはあるのか？不必要な要素はあるのか？そこから検証していかなければなりません。これは価値観の問題になります。
あるいはもっと違った観点から見出すことができるとも限りません。幸福はここにある、そこにあると簡単に断言して納得できるものではありません。

考察すべき対象

みんなが幸せになれる方法を考察しようとするれば、人のかかわる事柄全てが考察対象になります。人間の歴史は多くの方が幸せを求めてきた歴史でもあるのです。
科学技術の発展、社会・経済システムの構築、数多くの学問、思想・哲学・宗教、芸術・芸能...各人各様にそれぞれの分野で求めてきました。神話的なもの、都市伝説でも対象とします。これらは人間が何を感じ、考えて来たのかを教えてください。何を考えて来たかという意味では、歴史的な記憶も忘れてはなりません。現代社会に起こっている様々な事柄は、その歴史から連なるものであり、これからつながるものです。
そして私自身が感覚する事柄、また、私自身という命題に沿って認識しうるすべてが考察の対象となるのです。

考察者について

桜葉佳代（おーばかよ）は1965年4月25日東京下町生まれ。女性。血液型B型。子供の頃から理屈っぽく内向的な性格で、絵画・漫画などの創作活動を好む。都立普通科高校卒業後すぐに統一教会に入信、7年くらいの献身生活後、30歳前後で離教。その後印刷関連の仕事をしつつ、幾つかの宗教遍歴も重ね、四半世紀思索活動を続けている。現在パートナーはいるが未婚で子供はいない。

考察の方法

原則として整合性の重視。共感性の重視。独自性を重視するものではありません。

共感と言っても、私の文章に共感してほしいという以上に、私自身が誰かの表現に共感し、それらの整合性を検証していくスタイルです。

整合と共感は、別な機会に詳述しますが実は愛の要素です。愛と聞いただけで拒否感を持つ方もいらっしゃるでしょうがそれは偏見バイアスです。

人それぞれの立場で思考すると、表現はバラバラになりがちです。同じ人類という立場から、思考の構造そのものからの解析が必要です。

考察者は自身の思考と感情を刻みつつ解析しています。思い込みのバイアスは常識的なもの、宗教的なもの思い当たる全て極力排除します。枚挙・点検。これが自身を刻むという事だと思っています。

逆に科学的証明は必ずしも必要とはしません。未だ科学は万能ではありません。

理解できないもの、整合性の悪いものについては取り敢えずわきに置きます（エポケー）。ジグソーパズルのピースと同じでその時に組み合わせさらなくても後から必要になります。すべてのピースが組み合わせられないことには全人類の幸福は語れません。

なぜ考えるのか？

人の行動は思考によるものばかりとは限りませんが、どんな人でもいろいろ考えながら生きています。その考えは行動・生き方を支配するには至りませんが大きな影響を持ちます。みんなよりよく生きていきたいので、様々な次元で色々と考えるのです。

思考によらずとも、芸術など人生に大きな影響をもたらす力があります。素晴らしいものではありませんが政治利用されることもしばしばです。政治というのはこれまで一部の人間の思惑で動くことが多かったもので、思惑というのは悪知恵と言う事ができます。それは誰かの思考です。

芸術的表現は人に大きな影響を及ぼすことができますが、今の私にはそのパワーがありません。直接芸術表現はできませんので考察結果を文章化し、共感して下さる方がいてくださることに望みを賭けます。

人間の思考パターン

そもそも「分かる」というのはどういうことなのか？「理解する」とはどういうことなのか？

哲学でも認識論などさんざん論じられてきました。

『何時、何処で、誰が、何を、どの様に、どうした。』これは物事を説明するときに意識すべき事柄なのですが、これだけでも人間は「時間認識」「空間認識」「自己と他者」「物質認識」「関係性の認識」「運動認識」をしていることが分かります。

これら認識されたものを材料に人間は様々な思考を巡らします。

それは分類したり、比較したり、予測したり、計画したりすることです。

こうする時に、私達は「言語」を用いて思考していることに気づきます。

言語学

サクラ・Leafでは言語学を重要視しています。

言語学と言っても、色々あるようです。思考の問題に一番関係するのは認知言語学かもしれない。言語の起源や体系を扱う言語学もあります。音韻をあつかうもの、文法を扱うもの色々ありますが、言語については言霊やロゴスにも繋がる分野であり、他の生き物と人間が決定的に違っている部分でもあります。

思考の限界

人間は考える葦であると言われる。我思うゆえに我ありと言ったときの「思う」というのは「思惟」するつまり「考える」事なのです。

では、いわゆる「真理」というのがあるとして、それが人間を幸せにしてくれるのでしょうか？真理を理解すれば幸せになれるのでしょうか？多分無理でしょう。

頭が悪いと幸せになれないというわけはありません。

何故なら幸福を感じるのは心・感情だからです。先にも書きましたが人の行動を左右するのは思考だけではありません。

真理さえわかれば私は幸せだと言う人もいていいとは思いますが。その人の心が真理を欲しがっているのだから。真理を理解した状態を喜ぶのは心だということ。求めたものを得られれば幸せです。だから私たちは幸せを感じる主体である心についても理解しないといけません。

心を喜ばせる一喜ぶという感情のために私達は思考しているのですが、思考に制御された感情に幸福感はありません。そして思考は感情を制御できません

心の問題、知情意の関係性、欲求の問題を知的に整理しておく必要があります。

人間とは？

言葉を操ることができ、様々に思考することができるのが人間ですが、それ以外にも火や道具を扱ったり、二足歩行したり、地球上でもっとも繁栄している種族です。

地球を破壊しかねない程に増えて欲望のままに環境を利用し、進化の歯車から外れてしまったとさえ言われます。

宗教では人間を罪深い存在として扱ったりもします。それでも私たちは人間であり続けます。人間はどこから来て何処へ向かおうとしているのでしょうか？

人類の運命は決定論的に定められたことなのでしょうか？

科学的な検証も破滅的な未来を示しています。私達は未来を切り開いていけるのでしょうか？特に今、環境問題が取沙汰されています。人間と地球・自然との関係も避けて通ることはできません。

進化論として考えるか、創造論で考えるか、ID論というものもありますが、人間の存在の意味と責任について私達は考えなければなりません。

刹那と永遠～霊の問題～

科学だけで物事を考える人の多くにとって、人間は死んでしまえばそれで終わりです。心は脳が作り出していると考えます。が、死後の永遠を信じる人たちもあります。死後の永遠は霊の世界です。

霊とは肉体から切り離されても存在する心と捉えていいでしょう。心が肉体から切り離されても存在し続けることができるのかをいかに論証しうるのか問題です。科学的な証明ができないから存在しないというのは科学万能主義的な偏見と言えます。

存在しないことを証明することはとても難しい事です。証明できないから無いと断言しつつも、「もしもあったら」という不安を抱えて生きるのも不健全でしょう。「あるとしたら」という前提で考察を進めると面白いことが分かるかもしれません。

とはいえ、死や霊を扱う宗教は人類史上には数多乱立し、それぞれが正統性・真理性を主張し、それをもとに殺戮を繰り返してきました。ここには理性的な検証が必須でしょう。

生きている人の心と多くの神話・伝承、諸説語られる事柄から、共通性・整合性を求めて霊の永遠性について考察します。

心の成長

輪廻転生を信じている人たちは、肉体生活を魂の修練の場であると言います。

転生まで考えずとも、人の心は一生涯成長し続けます。それは知性的なものであったり、心情的なものであったりします。

心の成長については宗教だけではなく心理学にも学ぶべきところが多くあります。

幸せを感じ取る感性の成長、自己中心的で暴君のような欲求から調和的な喜びを求める精神に向かうためにはどうしたらよいのか？

成長のためのステージ

人間の心は人生の山・谷の経験と出会って成長してゆきます。

それがどのようなシステムであるかを理解しに、その経験のステージとなる環境が必要です。

環境とは小さくは自分自身の肉体であり、家庭環境であり、生活する地域であり、広く社会や世界なのです。

現在これらは必ずしもよく機能していませんし、問題を抱えている場合多くもあります。

環境と心との関係とても深いものです。

社会環境の問題

現代民主主義社会は理想的な社会でしょうか？

社会主義や共産主義と比較して良し悪しを論じることもできますが、全人類的幸福を築くことができるかが問題です。人間は歴史上理想的な社会を築けたことがあるのでしょうか？

理想社会を目指して共同体を立ち上げる人たちがいますが、上手くいっている団体はあるのでしょうか？上手くいかない理由は何でしょうか？

人間が幸せになるためには社会環境は必須です。それは人の生命と共に、心を健全に育てることができる社会です。

社会はどの様に築かれるか？

社会を変革するなどというチョットきな臭いことになります。逸れこそ紛争の種です。

過去の社会変革には多くの争いがありましたが、争いは人を不幸にし、怨恨を産むだけです。

民主主義は選挙という手段を選びましたが、必ずしもよく機能している様には見えません。

そもそも築くべき社会モデルが見出されていないので、マニフェストを掲げられても良いのか悪いのか分かりませんし、マニフェストは確実に実行されるか保証もありません。

民主的手法ではなく、喧伝されたスローガンに載った暴力ではなお更取り返しがつきません。

一人一人が何が大切なのかを理解して選択できるようになることが重要です。

争いの種はなぜ生まれるか？回避するためにはどうしたらいいのか？

社会の歪みを生み出してしまう人間の心について私達はもっと知らなければなりません。

学びを深める

私達は幸せになりたいと思いつつも幸せがどこにあるのか知りません。幸せを感じ取る感性も不十分です。一人一人が成長したいと思っても自動的に成長できる環境はありません。

それでは希望は何もないのでしょうか？そんなことはありません。

今は大きな変革の時代でしょう。世界的な疫病が起こったり、異常気象や大きな地震が起こったりします。人間は個人的にも困難に対峙した時に「どうしたら？」と考え始めます。多くを学んで成長することができます。